

1 プログラム名：

学年	教科	単元	関連教科	時間数
5年	社会	私たちの食生活と食料生産	社会・総合	3

2. 学習のねらい

- ①日本が世界中から食料を輸入していることを知り、日本の食料自給率や食料輸入に関心を持つ。
- ②食料輸入が増えている理由、輸入に頼っていることによる問題を様々な資料から考える。
- ③旬の食べ物が体に良いこと、地産地消は省エネで、食料自給率アップにつながることを知る。
- ④学んだことを生活に活かすことができるようになる。

3 ESDプログラムの目標 (○をつける)

主なESDの視点

持続可能な社会づくりの構成概念について、○がつく理由を記入

持続可能な社会づくりの構成概念		ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度	
相互性	○	批判的に考える力 (批判)	○
多様性		未来像を予測して計画を立てる力 (未来)	○
有限性		多面的、総合的に考える力 (多面)	○
公平性		コミュニケーションを行う力 (伝達)	○
責任性	○	他者と協力する態度 (協力)	○
連携性	○	つながりを尊重する態度 (関連)	
その他 ()		進んで参加する態度 (参加)	○
		その他 ()	

構成概念	○がつく理由
相互性	私たちが毎日食べている食料は、様々な国から膨大なエネルギーを消費して輸入されていることを知る。
責任性	食を通じ気付いた様々な課題を自分事と捉え、持続可能な社会を作るためにどのようにしていけばよいのか考えることができる。
連携性	地産地消が食料自給率アップにつながることを学び、安心・安全のための地域での様々な努力や取り組みを知る。

5 学習指導要領との関連 (関連させられる可能性のあるものを記入)

学年	教科/領域	学習内容
5年	社会	<p>(2) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。</p> <p>ア 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。</p> <p>ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き</p>

6 プログラム(単元・題材)の展開の流れ

1 時間目：日本が世界中から食料を輸入していることを知り、日本の食料生産や食料輸入に関心を持つ

分	学習課題	学習(活動)内容	指導・支援の方法、ポイント等 [教材・必要物]
5		普段利用しているスーパーマーケットではたくさんの種類の食品が売られていることを想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントでスーパーマーケットの食料品売場の写真を見せながらどのようなものが売られているのか確認する(野菜、肉、魚、加工食品、調味料など) ・児童から買い物体験を聞きながら確認していく。
15		毎日の食事で食べている身近な食材の多くが、外国から輸入されていることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・お弁当学習キット(食材の裏に産地と日本からの距離を記載)と白地図(世界)をグループごとに配布し、グループで話し合いながらお弁当箱に食材を盛りつけるよう指示する。 ・食材の裏に書かれた産地と日本からの距離を確認し、白地図に記入する。 ・地図から何が読み取れるか、気付いたことを児童と話し合う ・お弁当に使われている身近な食材が外国から輸入されていることを確認する。 ・輸入相手国から日本までの輸送手段を考えさせ、輸送にたくさんのエネルギーを使っていることに気付かせる。 ・各グループにスーパーのチラシを配布し、肉・魚・果物・野菜などが輸入されていることに気付かせる。

10		グラフを読み取り日本の食料自給率の様子について理解する。	「食料自給率」の意味を確認、全員で音読する。 グラフを見て気付いたことを発表してもらう ・主な食料（大豆、小麦、米、野菜、肉類、魚介類・果物）の自給率の移り変わりを知る ・100%を下回っているものは輸入していることをおさえる ・醤油やみその原料である大豆も輸入に頼っていることを補説する ・日本の食料自給率が他国に比べて低いことを知る
10		加工食品の表示から産地を確認する	・各グループにレトルトカレー、コーヒー、スナック菓子、缶詰などを配り、生産地を調べる。 ・加工食品にも外国産のものが多くつかわれていることを確認する。 ・加工食品は材料の産地ではなく加工地を記載しているものも多いことを補足説明する。
5	まとめ	授業の振り返り	①私たちが毎日の食事で食べている食材の多くが輸入されている②日本の食料自給率は低下しており世界からの輸入に頼っている

2時間目：食料輸入が増えている理由をグラフや写真などの資料から考える。

分	学習課題	学習(活動)内容	指導・支援の方法、ポイント等 [教材・必要物]
5		1時間目で学習したことの振り返り	パワーポイントを使ったクイズ形式で前回の復習をする。「食料自給率とは」「日本の食料自給率は何パーセント?」
5		よく食べる料理から、日本の食料自給率を実感する	カレーライス、スパゲッティ、ラーメンの材料の自給率をクイズ形式で考えさせる。国産のものだけだと一皿のどのくらいしかないか、目で見ることによって自給率の低さを実感させる。
30		食料の輸入が増えた原因についてグラフや資料を読み取りながら考える	グラフ・資料などはパワーポイントで大きく掲示する ①50年前と現在の献立を比較し食の欧米化に気付く ・児童の食生活について尋ねる 昨日の夕食、朝食、好きな献立など ・グラフを参考にして「昔と今の食事の変化」についてグループで話し合い、発表する。 (例) 食生活の欧米化に伴い、お米が減り、パスタやパンなど小麦を使った主食が増加、肉

			<p>類、油の摂取量も増加など。</p> <p>②アメリカやオーストラリアなどは少ない人手で大量の農産物を生産できるため安い値段で輸出できることを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式でまず児童に予想させる。 ・グラフにより国産と輸入農産物の値段を比較する ・狭い日本の田畑の写真と外国の広大な農場の写真を比較する。外国では大型機械を使って人件費を抑え大量に農産物を生産していることを理解させる。 ・耕地面積の差を具体的なたとえでイメージさせる (一人当たりの耕地面積は日本は野球場3個分、オーストラリアは900個分) <p>③1年を通して農作物が手に入るように、日本で収穫しない時期には海外から輸入していることを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフから日本と外国の農産物(例)かぼちゃの収穫時期の違いに着目させる。 ・スーパーのチラシから冬期のかぼちゃがメキシコやニュージーランドから輸入されていることを確認する
5		授業の振り返り	<p>パワーポイントでまとめを表示し、児童と一つ一つ確認する。</p> <p>①食生活の欧米化により国内生産だけでは足りない小麦や肉類などの輸入が増えた。</p> <p>②アメリカやオーストラリアなどは、少ない人手で、広大な農場から大量の農産物を生産できるため、安い値段で輸出ができる。</p> <p>③1年を通して農産物が手に入るように、日本で収穫しない時期には外国から輸入している。</p> <p>次回までに「もし、食料輸入がストップしてしまったらどうなる?」について考えノートに書いてくるよう指示する。</p>

3 時間目：①食料輸入をめぐる問題について知る

②国内の食料生産に携わっている人々の取り組みについて知る

③これまでの学習をもとに、自分たちの生活を見直し、できることを考える

分	学習課題	学習(活動)内容	指導・支援の方法、ポイント等 〔教材・必要物〕
5		2時間目で学習したことの振り返り	パワーポイントを使って復習。児童の反応を見ながら確認する
10		「もし、食料輸入がストップしてしまったらどうなる？」について	ノートに書いてきたことをもとに発表させる。 児童から出た意見は黒板に書き出し共有する。 (例) お店に並ぶ品物が少なり、いろいろなものが食べられなくなる 値段が高くなって買えない人が出てくる 洋食の献立が作れなくなる 少ない食べ物をめぐって争いがおきる。
5		食料輸入をめぐる問題について知る ・安全面の不安 ・異常気象や戦争などによる輸入ストップ ・環境破壊 ・世界の人口増加による食料不足	・「異常気象発生地域分布図」により世界中で異常気象が頻発していることや、干ばつや大雨などによる農作物の被害の写真を見せ、農作物の輸入ができなくなる可能性があることに気付かせる。 ・エビの養殖などの例を挙げ私たちの食生活と輸出国の環境破壊のかかわりに気付かせる。どのように感じたか意見を聞く。
10		国内で食料生産にかかわる人々の取り組みを知る ・地産地消 ・トレーサビリティ 食の安心・安全と結びつけて考えさせる。	・「地産地消」の意味を問い、補足説明をする。 ・地域の地産地消の店や取り組みについて知っていることを問う。 ・実物や写真を提示し「地元産」「生産者名」などの表示に注目させる ・「トレーサビリティ」の意味を説明し、シールを貼った食品をみせ、実感させる ・食品カードを使って「食品の旬あてクイズ」をし、児童に興味を持たせながら、旬の食材が体に良いことを説明する。 ・地産地消のよいところについて児童に意見を聞く
15	学んだことを生活に活かす	学んだことを振り返り、自分たちの生活を見直しできることを考える。	・これまで学んだことを振り返りながら考える。グループで発表させる。 ・今日からできることをみんなで実行していくことを確認する ・家の人にも学んだことを話し、家庭での実践につな

			げていけるよう促す。
--	--	--	------------

7. 児童用アンケート結果（当会が用意したもの：別紙のとおり）

--

8. 担当教員の感想から

--